

# 道路標識など道路附属物の老朽化状況に関する 【鹿児島県】アンケート

2025/09/19

古河電気工業株式会社

古河電気工業株式会社（本社：東京都千代田区大手町2丁目6番4号、代表取締役社長：森平英也、以下：古河電工）と国立大学法人東北大学大学院工学研究科 久田研究室（以下：久田研究室）は、道路標識や標示などの道路附属物の老朽化状況についての住民アンケートを、鹿児島県内の全19市688名を対象に実施しました。

## <調査背景>

道路標識や街路樹などの道路附属物は、日本全国で約1,000万本以上存在し、近年では老朽化にともなう落下事故も発生しています。今後、労働人口がさらに減少することが予想されるなか、標識などの道路附属物においても効率的なメンテナンス方法の確立が求められています。

古河電工と久田研究室は標識などの道路附属物の効率的なメンテナンス方法を共同で研究していますが、住民通報からメンテナンスすべき道路附属物が明らかになることも多いため、昨年12月に全都道府県における住民の道路附属物の老朽化の認知状況等を調査するためにアンケートを実施しました。今回は前述の調査で住民が修繕を必要とする道路附属物を目にするると多くの回答が寄せられた鹿児島県内における全市（19市）を対象に調査を実施し、市レベルでの道路附属物の老朽化実態を明らかにしました。

## <調査概要>

- 調査方法：インターネットによる調査
- 調査対象：鹿児島県内20代～60代の男女（688名（各市50名を上限、50名に満たない市あり））
- 調査実施期間：2025年8月6日～20日
- 調査機関：株式会社電通マクロミルインサイト

## <調査トピックス>

- ✓ 鹿児島県内において各市で約6割の住民が、「各道路附属物の老朽化」を認知
  - 老朽化に対する住民認知が特に大きいのは出水市と南さつま市
- ✓ 鹿児島県内の各市の8割弱の住民が、「道路附属物のメンテナンスを強化すべき」と考えている
- ✓ 鹿児島県内の各市の3人に1人の住民が、「自治体による道路附属物のメンテナンスがなされていない」と感じている

## ＜久田真教授（東北大学大学院工学研究科）による調査の総括＞



道路標識などの道路附属物も含めた道路インフラは、生活の要である一方で、適切な管理・メンテナンスを実施しないと重大事故の要因となります。トンネルや橋梁などの重要構造物については法定点検が定められていますが、道路附属物の点検について法律は制定されておらず、自治体などの道路管理者に一任されています。

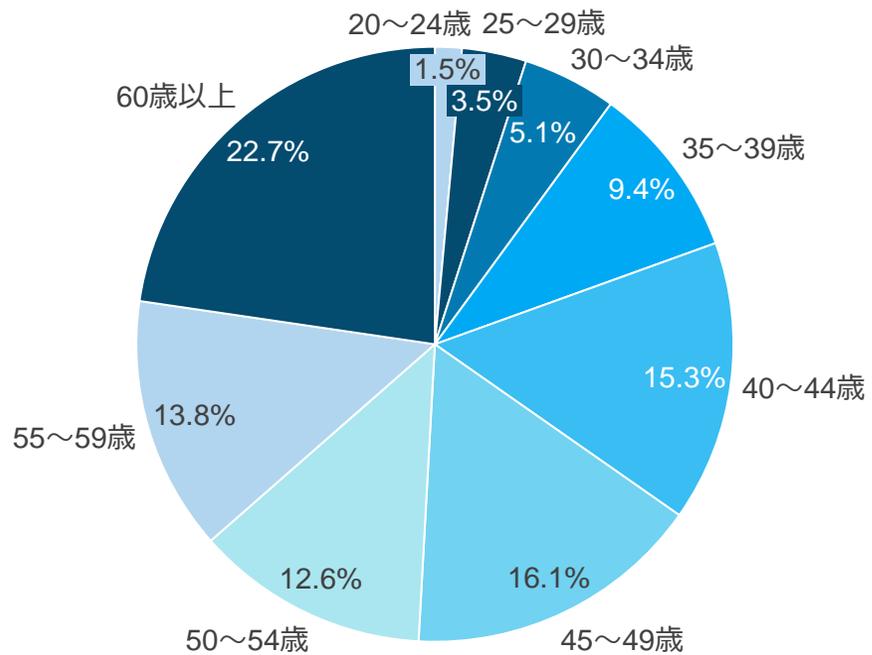
前回は、47都道府県の県単位で、附属物の老朽化状況の調査いたしました。調査の中で、老朽化の実態は各県ごとに大きく乖離があることが分かりましたが、より詳細に原因把握を行うため、県単位ではなく、市単位でも調査してほしいという要望もあり、今回、前回調査のワースト10県に対し、市単位での調査を実施いたしました。

調査の結果、鹿児島県内の各市において、回答者の約6割が道路附属物の老朽化を認知している結果となり、特に老朽化が進んでいると感じている住民が多いのは出水市、南さつま市などのエリアということが明らかとなりました。老朽化が進んでいるのは、気象条件や各市特有の道路事情の問題もありますが、自治体の維持管理方針などの影響もあると推察されます。

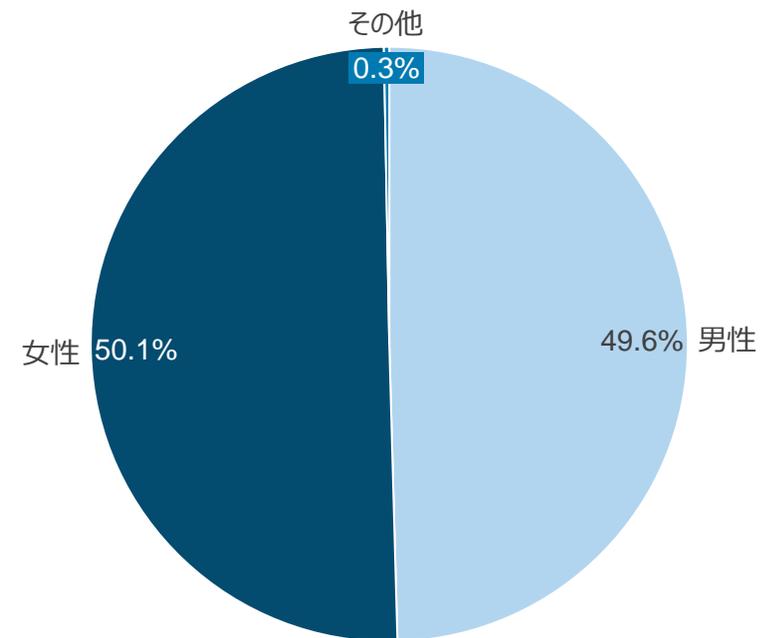
また、各市における附属物のメンテナンス状況については、3人に1人が道路附属物のメンテナンスがされていないと感じており、8割弱がメンテナンスを強化すべきと考えていることが明らかとなりました。背景には、今後は道路附属物を新設するのではなく、既存のものをメンテナンスしていくのが望ましいという住民意識があることもわかっています。

道路に関する関心事においては、道路附属物への関心度は「道路路面の老朽化」など道路利用上、個人が直接影響を感じやすい要素と比較すると低いものの、ひとたび道路附属物の落下事故が起これば住民が怪我をするリスクも高く、社会として非常に大きな課題と認識しています。今後も久田研究室では、古河電工と共同でより効率的な管理・メンテナンス手法の研究に加え、調査などを通じ情報提供を実施してまいります。

## 年齢



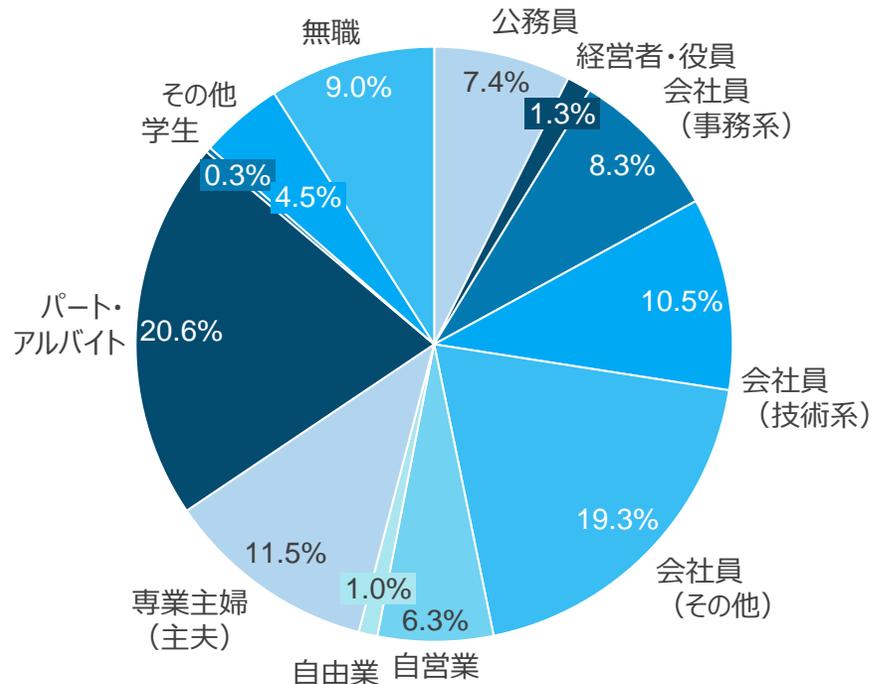
## 性別



# 回答者属性

- 鹿児島県内の全19市に対して各市50名を上限に、アンケートを実施した。

職業



自治体名

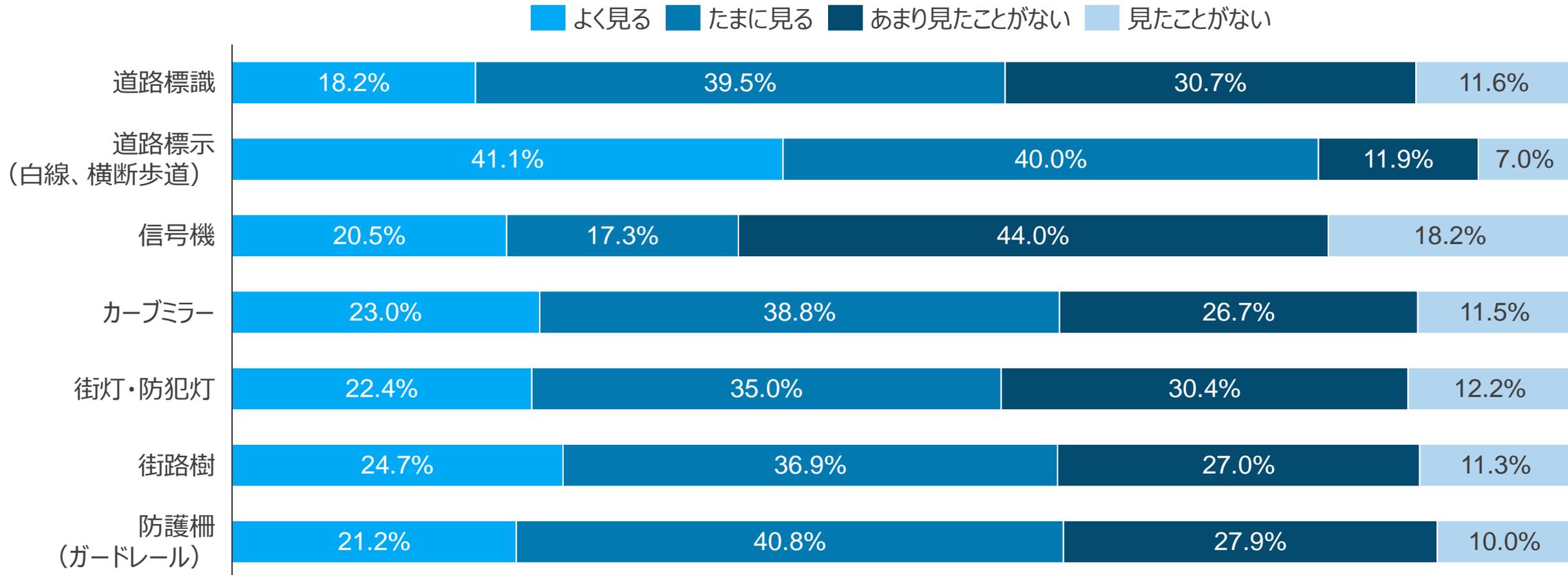
人数(名)

鹿児島市	50
鹿屋市	50
枕崎市	50
指宿市	50
薩摩川内市	50
日置市	50
霧島市	50
始良市	50
奄美市	40
いちき串木野市	37
南さつま市	35
志布志市	34
曾於市	33
阿久根市	28
枕崎市	25
南九州市	23
垂水市	15
伊佐市	14
西之表市	14

# 老朽化した道路附属物の認知（道路附属物別）

- 道路標示が、最もメンテナンスが必要だと思われる。「よく見る」「たまに見る」の合計で81.1%を占める。
- 信号機を除く道路付属物においても、「よく見る」「たまに見る」の合計が60%前後を占めている。

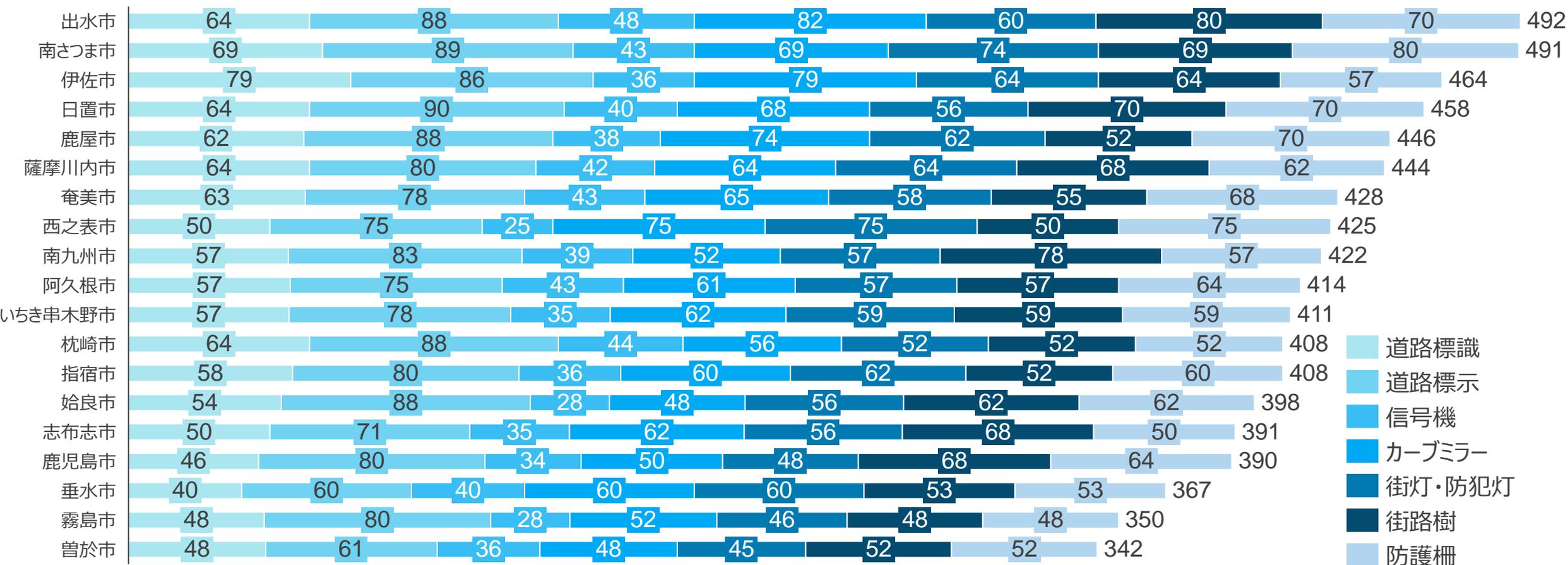
Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。



# 老朽化した道路附属物の認知（鹿児島県内）

- メンテナンスが必要な道路附属物を、最も多くの市民が認知しているのは出水市。次いで、南さつま市、伊佐市、日置市、鹿屋市の順。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。  
対象7附属物の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計



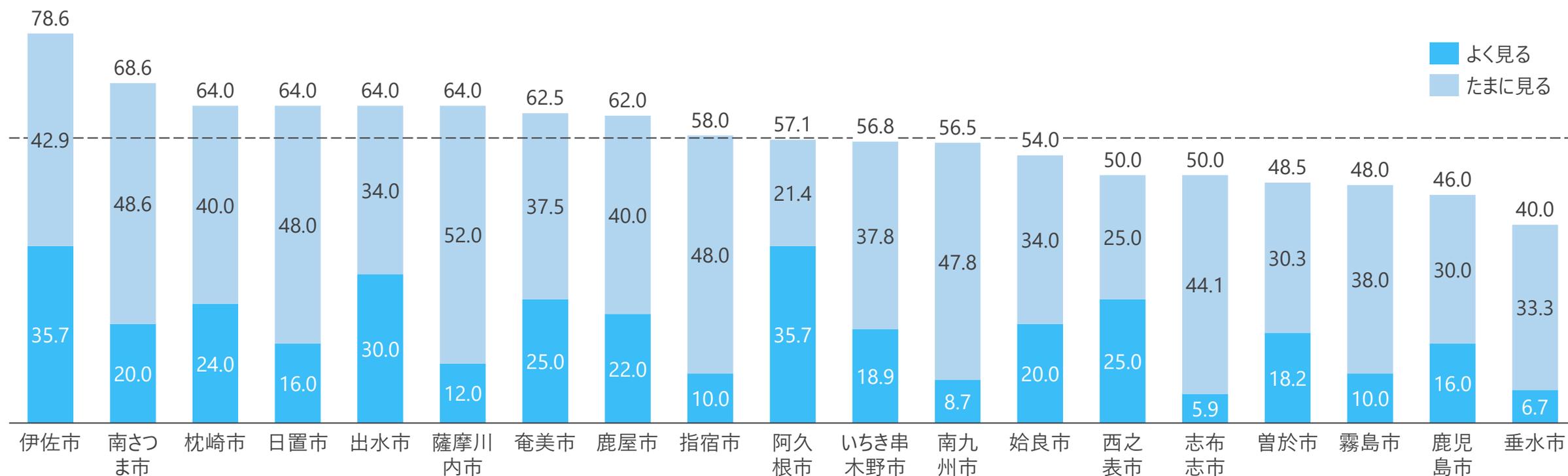
# 鹿児島県内での老朽化した道路附属物の認知 (道路標識)

- メンテナンスが必要な道路標識を「よく見る」「たまに見る」の割合が最も高かったのは伊佐市の78.6%であった。
- 次いで、南さつま市、枕崎市、日置市、出水市などが続く。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。  
道路標識の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は%

※「---」は平均値



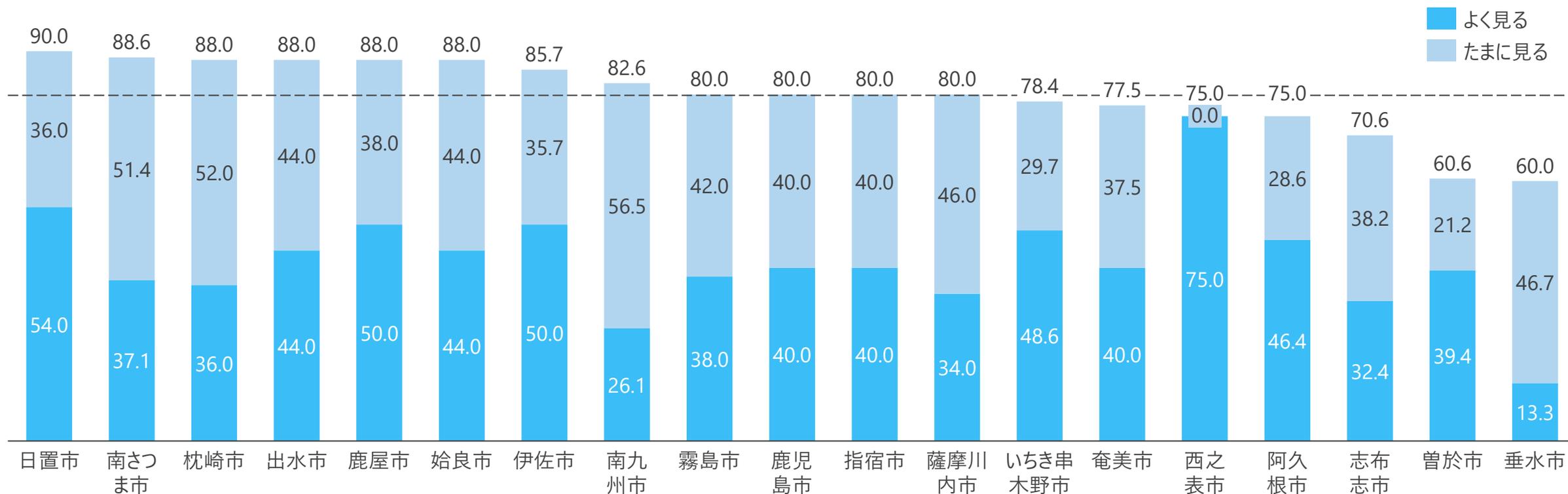
# 鹿児島県内での老朽化した道路附属物の認知 (道路標示)

- メンテナンスが必要な道路標示を「よく見る」「たまに見る」の割合が最も高かったのは日置市の90.0%であった。
- 次いで、南さつま市、枕崎市、出水市、鹿屋市、始良市が続く。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。  
道路標示の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は%

※「---」は平均値



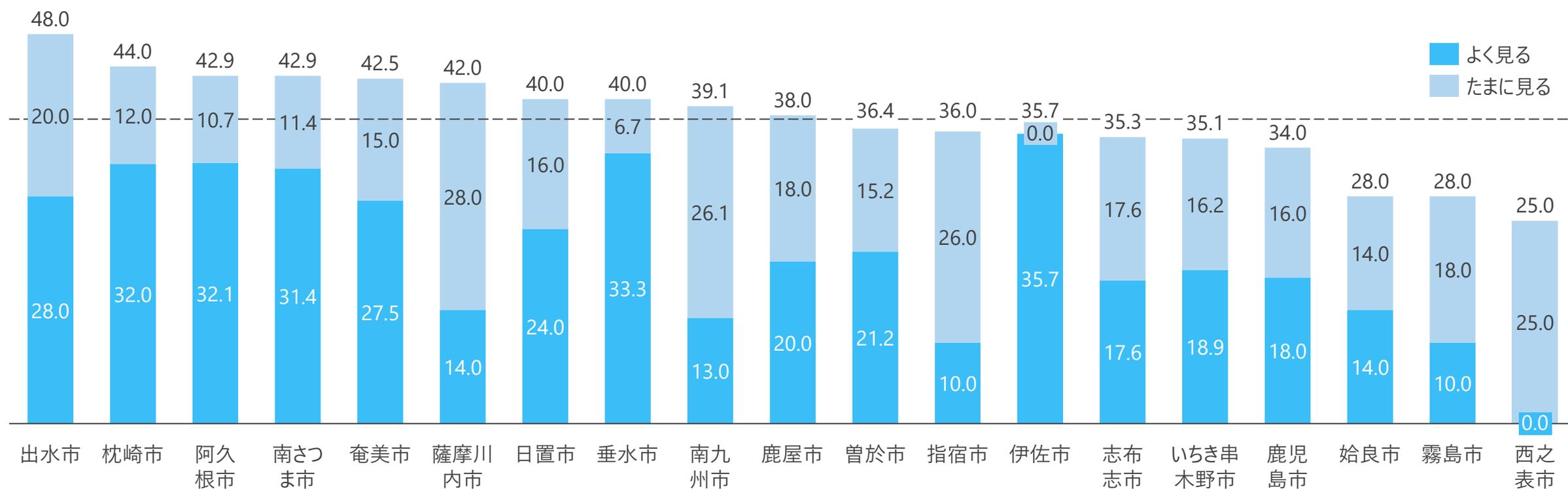
# 鹿児島県内での老朽化した道路附属物の認知 (信号機)

- メンテナンスが必要な信号機の認知は、他の道路附属物と比較すると、県内の全市で低い傾向があった。
- 最も認知が高かったのは出水市で「よく見る」「たまに見る」の合計が48.0%であった。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。  
信号機の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は%

※「---」は平均値



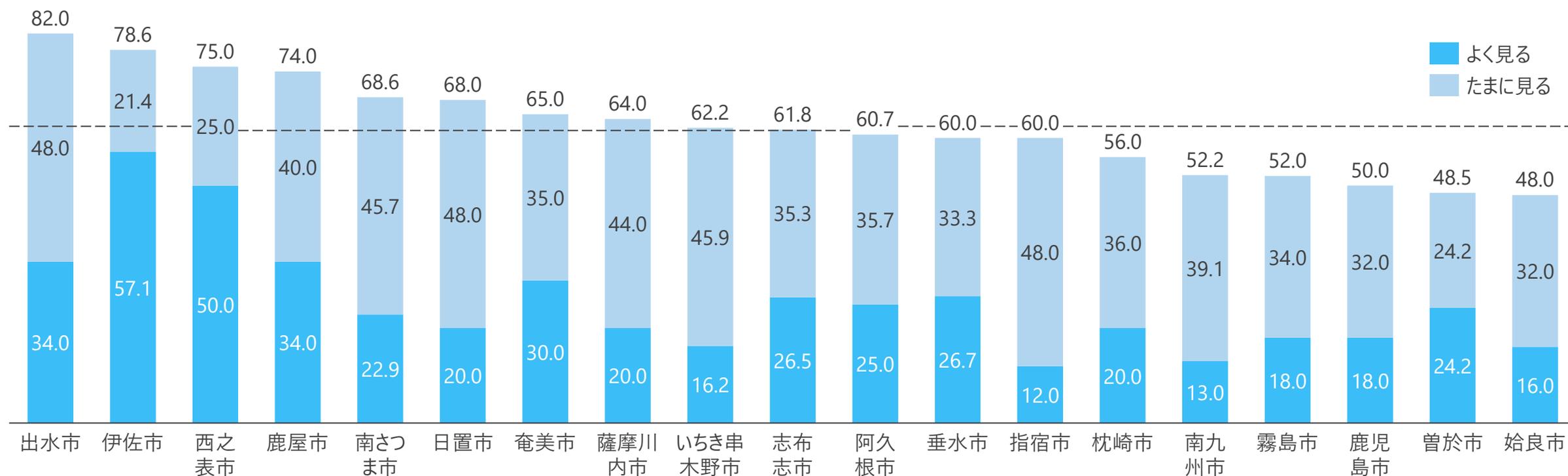
# 鹿児島県内での老朽化した道路附属物の認知 （カーブミラー）

- メンテナンスが必要なカーブミラーを「よく見る」「たまに見る」の合計が最も高かったのは出水市の82.0%であった。
- 次いで、伊佐市、西之表市、鹿屋市が続く。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。  
カーブミラーの老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は%

※「---」は平均値



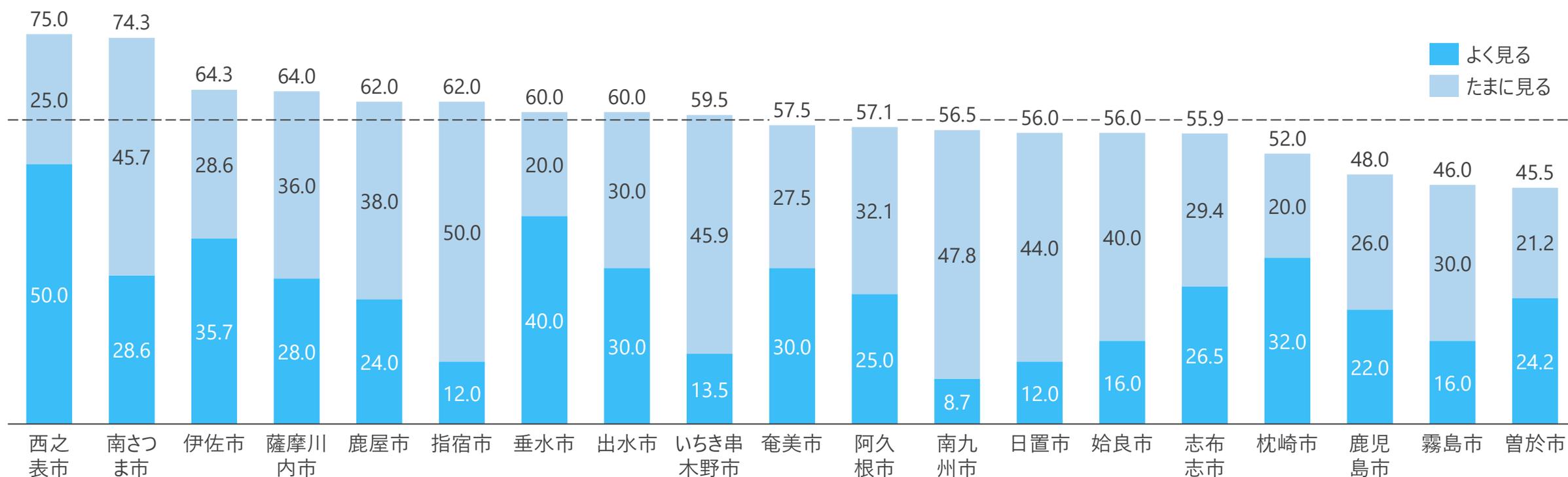
# 鹿児島県内での老朽化した道路附属物の認知 （街灯・防犯灯）

- メンテナンスが必要な街灯・防犯灯を「よく見る」「たまに見る」の合計が最も高かったのは西之表市の75.0%であった。
- 次いで、南さつま市、伊佐市、薩摩川内市が続く。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。  
街灯・防犯灯の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は%

※「---」は平均値



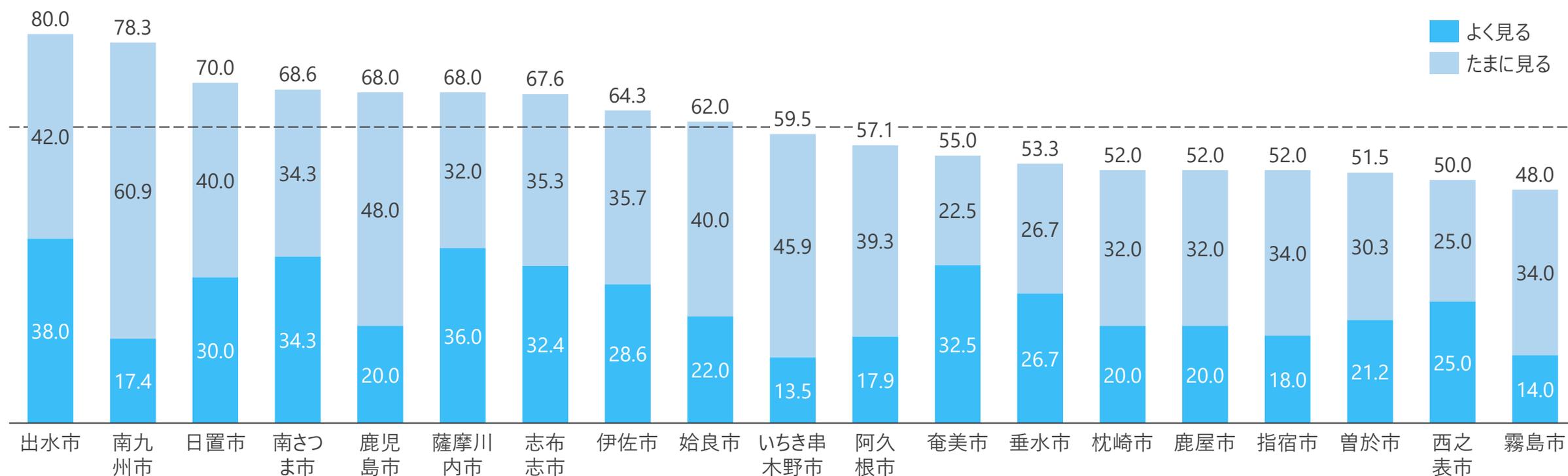
# 鹿児島県内での老朽化した道路附属物の認知 (街路樹)

- メンテナンスが必要な街路樹を「よく見る」「たまに見る」の合計が最も高かったのは出水市の80.0%であった。
- 次いで、南九州市、日置市、南さつま市、鹿児島市、薩摩川内市が続く。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。  
街路樹の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

※値は%

※「---」は平均値



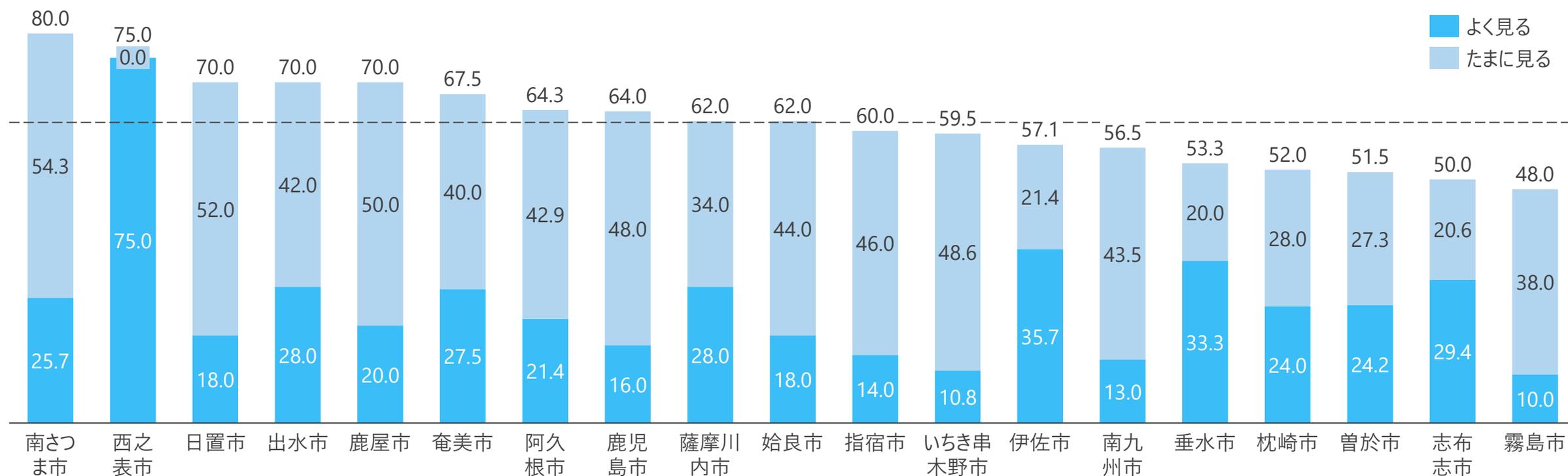
# 鹿児島県内での老朽化した道路附属物の認知 (防護柵)

- メンテナンスが必要な防護柵を「よく見る」「たまに見る」の合計が最も高かったのは南さつま市の80.0%であった。
- 次いで、西之表市、日置市、出水市、鹿屋市が続く。

Q: 普段生活する中で、メンテナンス（維持や修繕、更新）が必要な状況だと思われる以下の道路附属物を見たことがありますか。  
防護柵の老朽化認知（「よく見る」「たまに見る」）合計

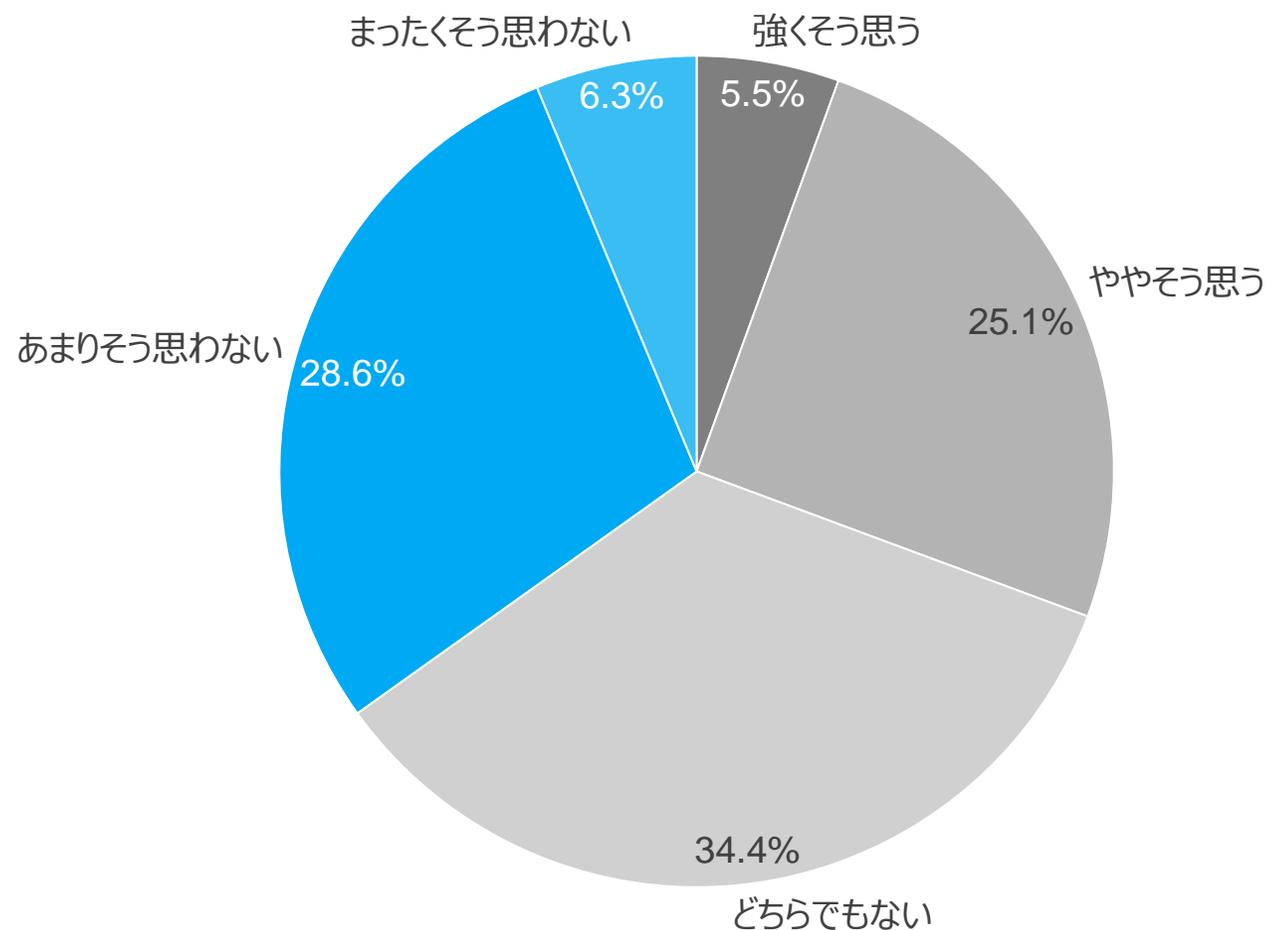
※値は%

※「---」は平均値



- 自治体が道路附属物のメンテナンスを実施していると感じるか、について「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」と回答した住民が34.9%となり、3人に1人の住民からメンテナンスを実施していないとみられている。

Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）を実施していると感じますか。

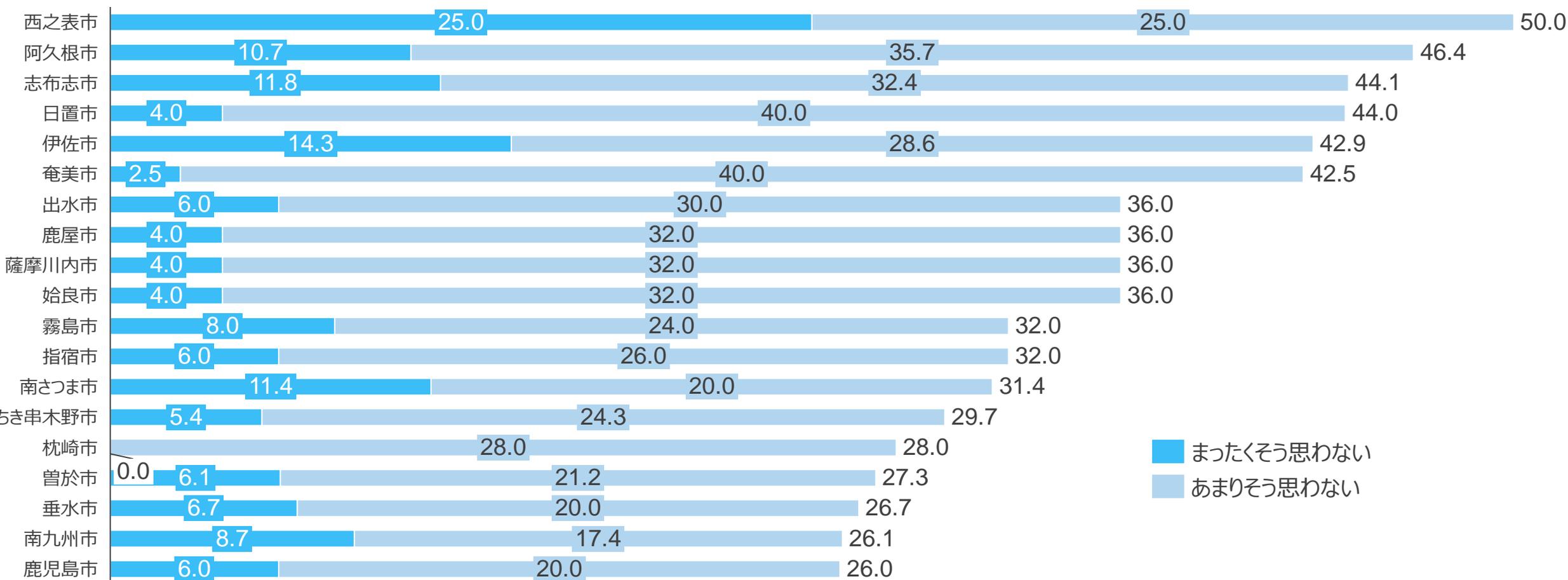


# 鹿児島県内での 道路附属物メンテナンスの自治体の取り組み状況の認知

- 自治体が道路附属物のメンテナンスを実施しているか、について「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」の合計が最も高いのは西之表市の50.0%であった。

Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）を実施していると感じますか。  
「まったくそう思わない」「あまりそう思わない」合計

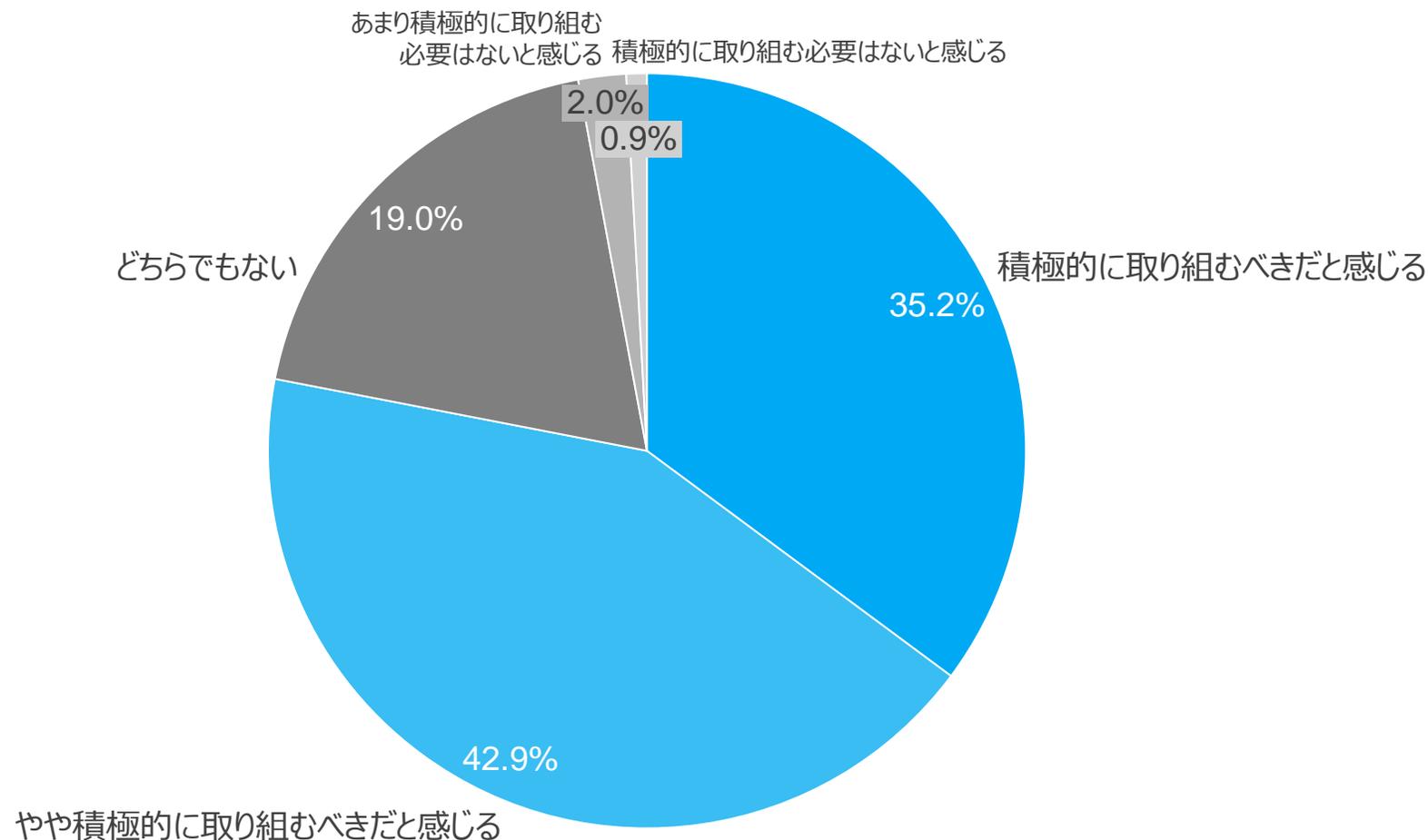
※値は%



# 自治体に対する道路附属物メンテナンスに関する要望

- 自治体が積極的に道路附属物のメンテナンスに取り組むべきか、については、「積極的に取り組むべきだと感じる」「やや積極的に取り組むべきだと感じる」の合計は78.1%となり、約8割の住民が道路附属物のメンテナンスを望んでいるという結果となった。

Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）に積極的に取り組むべきだと思いますか。

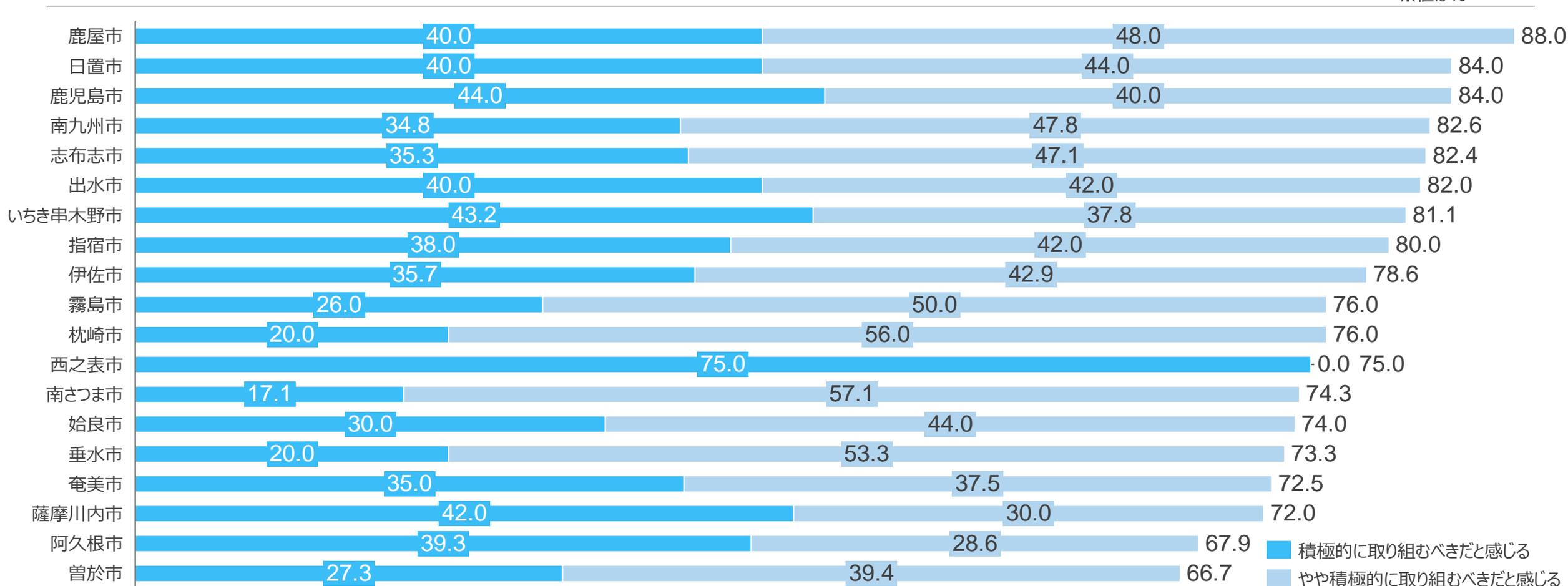


# 鹿児島県内での自治体に対する道路附属物メンテナンスに関する要望

- 市別で道路附属物のメンテナンスに「積極的に取り組むべきだと思う」「やや積極的に取り組むべきだと思う」の合計が最も高かったのは鹿屋市の88.0%であった。

Q:お住まいの自治体が、道路附属物のメンテナンス（維持や修繕、更新）に積極的に取り組むべきだと思いますか。  
「積極的に取り組むべきだと思う」「やや積極的に取り組むべきだと思う」合計

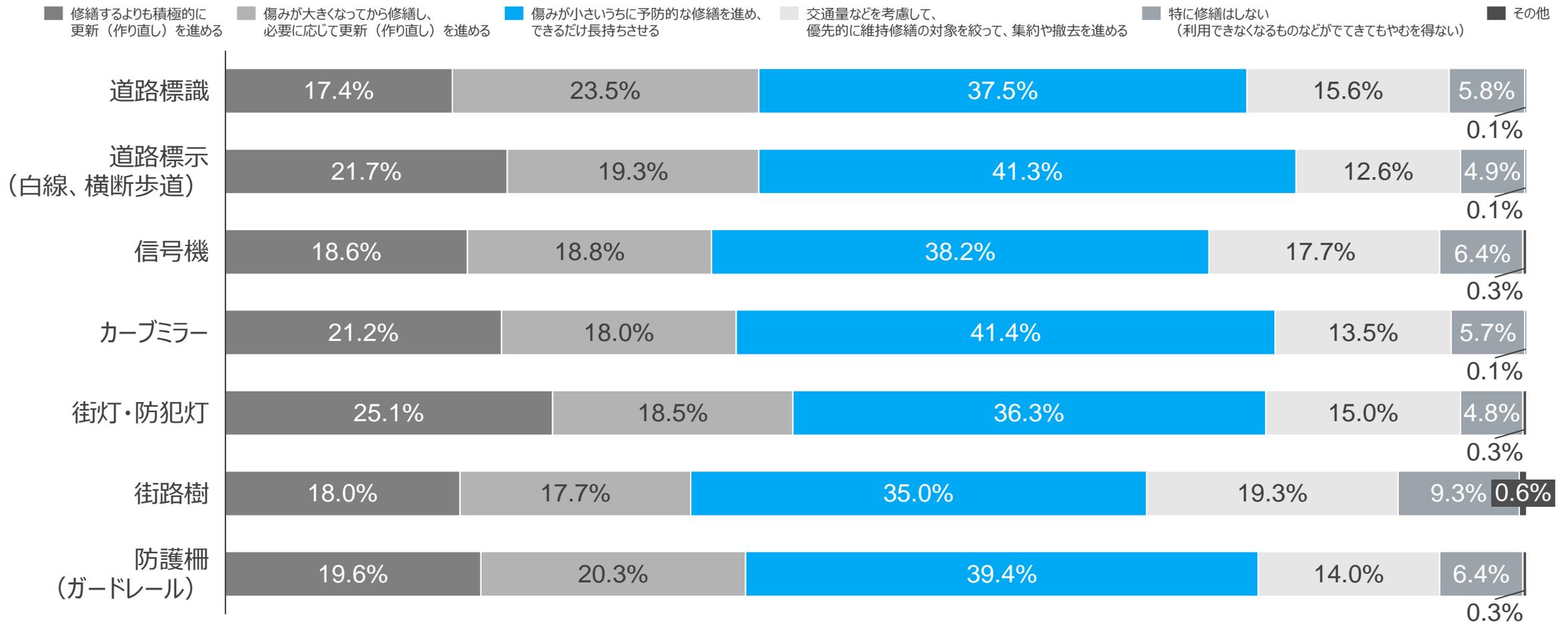
※値は%



# 自治体に望むメンテナンスへの取り組み方針

- 自治体に望む道路附属物の維持管理の方針として、対象の道路附属物すべてにおいて、約4割の住民が「傷みが小さいうちに予防的な修繕を進め、できるだけ長持ちさせる」を回答。

Q:今後自治体はどのように維持や修繕、更新を行うべきだと思いますか。

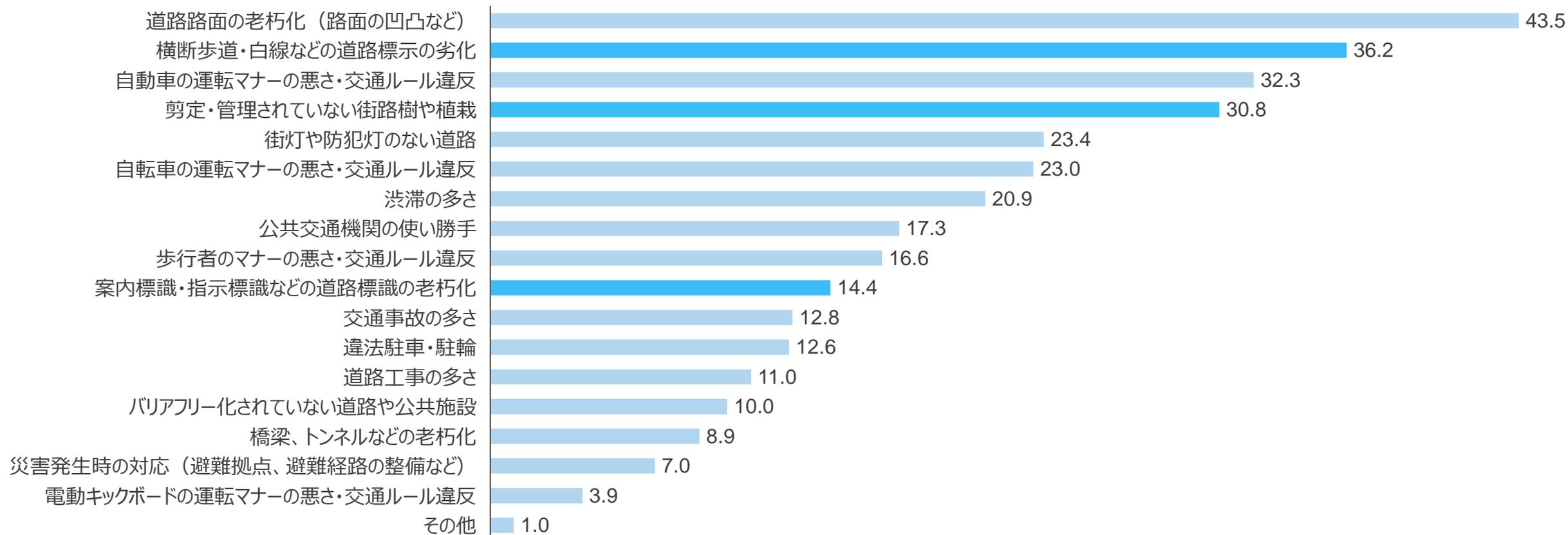


# 道路に関する不安事

- 道路路面の老朽化が43.5%、次いで横断歩道・白線などの道路標示の劣化が36.2%と路面に関する不安が目立つ。
- 道路附属物に関連する選択肢では「道路標示の劣化」が36.2%、「道路標識の老朽化」は14.4%となった。

Q:日常生活をする上で、道路に関して困っていること、不安に感じていることをすべてお答えください

※値は%



# 参考) 近年発生した道路附属物の落下事故

事故発生年月

事故の概要

事故発生年月	事故の概要
2022年12月	香川県丸亀市において市道脇のカーブミラーが倒れ、女性が乗った自転車の前かごに接触、頭を打撲する軽傷
2023年6月	青森県おいらせ町にて町道の歩道脇の道路標識が倒壊、下校中の小学生のランドセルに接触
2024年2月	東京都渋谷区道元坂において歩道の街灯が倒れる。けが人はなし
2024年3月	仙台市泉区で区の管理する街路灯が乗用車に衝突し、40代女性がけが
2024年5月	大分県日田市で道路標識がポールの根元から外れ、下校中の小学生がけが
2024年5月	愛媛県新居浜市の市道のカーブミラーが倒れ、近くを歩いていた小学生が軽いけが
2024年7月	静岡県静岡市において、市道の信号機支柱が倒れ反対車線を走っていた車に衝突
2024年9月	東京都日野市のイチヨウ並木で枝が折れて落下、歩いていた男性が下敷きになり死亡
2025年1月	島根県出雲市で街灯の支柱が折れ、登校中の小学生にあたりけが
2025年4月	出雲市今市町の市道で、歩道にある高さおよそ6メートルの街灯が根元近くから折れる

ご清聴ありがとうございました  
Thank you

---

古河電工グループ パーパス

「つづく」をつくり、  
世界を明るくする。

